

国立民族学博物館の収蔵品⑩

# 東南アジアにおけるゴング



写真1 カンボジア、ラタナキリのゴング。  
標本番号H0230746



写真2 クルンの人々の病氣治療儀礼における  
ゴング演奏。2005年。



写真3 カンボジアのコン・ヴォン・トム。  
標本番号H0217173

ゴングは、東南アジアに広くみられる楽器の一つである。民俗的な音楽から宮廷音楽まで、幅広い音楽に用いられる。行事の開始の合図や、何かを知らせるためにも打たれる。青銅や鉄、真鍮などを素材とするゴングの製作は、特別な設備や技術を要する。身近な素材である竹の楽器とは違って長持ちし、代々受け継がれる貴重な品である。ゴングやゴングを含むアンサンブルを所有することは、しばしば、所有者の権力や経済力を表した。

カンボジア北部ラタナキリに住む少数民族の生活において、ゴングは重要な意味をもっている。たとえば、クルンと呼ばれる人々は、病氣治療などのために、スイギュウやウシなどの動物を犠牲にして精霊にささげる儀礼を行う。そのとき、ゴングを用いるアンサンブルを欠くことができない。五人の演奏者がそれぞれこぶのようなでっぱりのあるゴングをもって打ちながら、柱につながれた動物の周りをまわり、そしてその動物を犠牲にする。このアンサンブルは、結婚式にも演奏するし、人が亡くなったときにも演奏する。ちなみに人が亡くなったときに演奏する曲は、ほかの機会に演奏することはできない。ゴングを聴いて死者を迎えにやってきた精霊の怒りを買ってしまうのだそう。

ラタナキリのゴングは、基本的に一人が一つのゴングをもち演奏するが、東南アジアには一人の奏者が複数の小型ゴングを演奏する楽器

もある。研究者がゴングチャイムと総称する楽器がそれである。東南アジア大陸部では環状に並べたものが多く、宮廷アンサンブルなどに用いられる。カンボジアのコン・ヴォン・トムもその一つで、ピン・ピアットとよばれるアンサンブルで用いられる。

インドネシアのジャワ島やバリ島などにみられるガムランは、最も多くのゴングを用いるアンサンブルと言ってよいだろう。ジャワ島の大型ガムランの場合、つり下げ型のゴングのセット、平置き型のゴングのセット、直線二列のゴングチャイムなどが用いられる。ガムランは、もともと宮廷で発達したアンサンブルで、様々な儀礼や公式行事に際して演奏されてきた。王宮に備えられたガムランは、それぞれ特別な力を秘めていると信じられており、ゴングは、単なる楽器ではなく、王の力の源泉ともなっている。

(福岡正太)



写真4 ジャワ島中部スラカルタ、マクヌガラ王宮のガムラン。2016年。